派遣隊員レポート
協力の中の青春　Vol.22

佐藤 綾子（さとう あやこ）
平成18年度1次隊 養護 タイ

① プロフィール

滋賀県立近江学園で4年間発達障害児への支援をしたのち、青年海外協力隊に応募。2年間の活動後は再び近江学園で勤務。

② 活動していた国、地域の気候や文化の紹介

私が活動していたのは東南アジアの中のタイ王国でした。南国タイは、寒さが苦手な私にとってぴったりな任地でした。一番の猛暑である4月は本当に暑く、扇風機の前にいても熱風が送られてくるため全く涼を感じず、立っていることすらままならず、私もタイ人と同様、よくぐったりと昼寝をしていました。文化・慣習においては、日本と同じ仏教国であったため、比較的馴染みやすい文化であったと思います。それでも敬虔な仏教徒と私とでは違いも大きく、私が驚かさせられることや、逆に私の行動をみてタイ人が驚くことがたびたびありました。例えばタイ人にとって頭は仏が宿る大事なところであるため触ってはならない決まりがありますが、ついうっかり相手の頭をこづいて大変ビックリされたことなどがありました。

③ 活動や生活について

　私の活動は、タイ全土の各県に設置されている特別教育センターという公的機関で、通所してくる自閉症児童への支援、スタッフへの助言、家庭訪問が主でした。自閉症児への支援では日本の職場経験を生かした関わりをすることで、子ども達の成長が感じられ、そこからスタッフの興味や関心が引き出せるなど、嬉しいことがあった一方で、特別教育センターに通所してくる一部の子ども達だけへの支援に、これでよいのだろうかと疑問や不安を感じたのも事実でした。そのため、センターへ通ってくることができない子ども達への家庭訪問活動の開始や、スタッフや保護者対象の自閉症や身体障害についての勉強会を開催したりしました。また、福祉や障害児教育に関心を持ってもらいたい、将来福祉の担い手になってもらいたいという思いで、地域の高校生対象にした障害児との交流事業などを開催していきました。高校生対象の交流事業では、朝、緊張した面持ちでやってきた生徒達が、夕方帰る頃には興味や関心をしっかり根付かせてセンターを去っていく姿に、センタースタッフ共々嬉しくやる気を感じました。

しかし、私の活動はうまくいったことばかりではありませんでした。家庭訪問では、寝たきりのお子さんへの食事介助方法の伝授や、他地域にある社会資源などの情報提供、他には同じ協力隊である作業療法士隊員に手助けをもらい、身体障害児にあった机や椅子作りなどを行っていきました。こういったケースがある一方で、家庭訪問では出向いても、両親は働きにいっていて、障害をもった子どもは、独りおもちゃも何もない柵の中に入れられており、「生活するためには働かなくてはならない、こうして障害を持った子どもを置いたまま働きに出かける家庭はたくさんある。」とセンタースタッフに言われたり、病院などで訓練をすれば歩ける可能性のある子どもが、病院まで遠く、また病院へいく足がなく自宅にこもりっきりになっていたりと、家庭訪問しても為す術がなく辛い思いをしたことも多々ありました。各県に一つ設置されているセンターとはいえ、一つの県が広く、家庭訪問を行うにも限界を感じました。

活動する上で辛いときに支えになってくれたのは協力隊仲間であったことはもちろん、現地のタイ人スタッフの支えが大きかったと思います。私は一軒家にセンターのタイ人女性スタッフ2名と3人暮らしをしていました。共同生活は生活習慣の違いなどからしんどい思いをしたこともたびたびありましたが、毎日の食事が楽しかったり、お互い仕事する上での思いや考えをじっくり伝える時間が持てたり、気持ちが沈んでいるときには私の気持ちを聞いてくれたり、逆に私が聞いてあげたりと、私にとってはプラスの面が多かったように思います。一度タイ語が上手に操れず、伝えるのを諦めかけたことがありましたが「綾子の気持ちが知りたいからゆっくりでもいいから話してほしい」と同居人が諦めずに言ってくれた時は本当に嬉しかったです。優しく受け入れてくれたセンターのスタッフと、特にいつでも一緒にいてくれた同居人たちの存在があったからこそ、辛いことがあっても乗り越えられ、2年間の任期を最後まで送ることができたと思います。彼らとは日本に帰ってきた今でもつながっています。すばらしい出会いと感動をありがとうございました。

同居人(右が佐藤)

センターで子供たちと感覚遊び

センタースタッフが手作りの教材で
自閉症児を教えているところ。

両手で体を支えなければ座ることができなかった女の子が体にあった椅子と机により両手が自由に使えるようになり、お絵かきを楽しむ姿。

保護者対象の自閉症についての勉強会の様子。軍手を2枚はめて糸通しや大豆つかみを行い、自閉症児の指先の感覚の不自由さを体験してもらう。

センタースタッフ対象の自閉症についての勉強会の様子。

学生と障害児との交流事業。午前中子供たちとかかわってもらい、午後からはセンタースタッフとの障害に興味を持ってもらうような勉強会を開催。